

JASDAQ  
証券コード：2309

*CMIC*

Financial Report 2002

第18期 事業報告書

2001年10月1日～2002年9月30日

# CROから始まる、ビジネス領域。

私たちはCRO(医薬品開発受託機関)事業を通じて、  
EBM(科学的根拠に基づいた医療)の確立への貢献と  
新たなサービス領域の創造を  
行っています。



## 企業ミッション:EBM(科学的根拠に基づいた医療)の確立に貢献する企業

医薬品開発のパートナーCRO(医薬品開発受託機関)。あまり聞き慣れない言葉ですが、製薬産業にとって不可欠な支援ビジネスとして1997年に我が国でも法的な位置付けを得て、急速に市場を拡大しています。当社は、1992年4月に日本初のCROとして事業をスタート。その先駆者としての豊富な実績

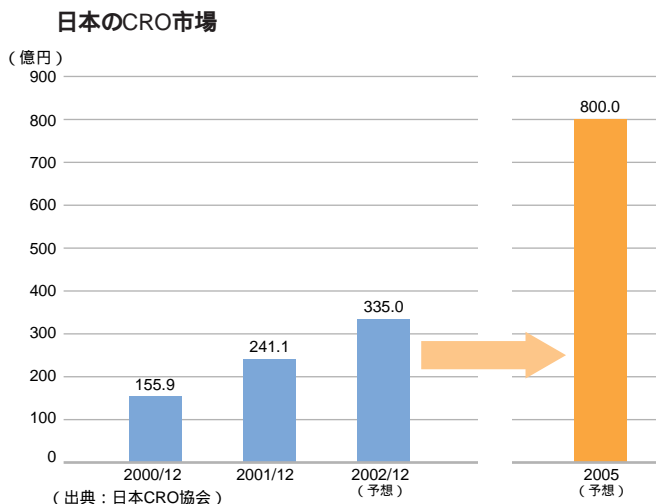
と培ったノウハウをもとに、医薬品開発の支援とその開発にあたっての臨床試験の環境整備に力を注いできました。これからも科学的根拠に基づいた医療(EBM)の確立に貢献する企業として、グループ力を結集し製薬産業を総合的にサポートしていきます。

**医薬品開発のトータルサポートをご提供。  
我が国のEBM(科学的根拠に基づいた医療)の確立に貢献し、  
より一層の成長を目指します。**

当社が日本で初めてCROビジネスを開始してから10年が経過しました。その間、医療を取り巻く環境は著しく変化し、特に1997年の新GCP(臨床試験の国際基準)施行以降、当社は新薬開発のモニタリング業務を中心に成長してまいりました。

製薬業界では世界規模での新薬開発競争が激化し、創薬から販売までを自社内で行う今までのスタイルからアウトソーシングを活用するスタイルへと変化しております。その結果、日本国内のCRO市場は2002年には300億円となり、2005年にはさらに800億円に拡大すると予測されています。

その中で、当社グループは製薬会社はもちろん、医療機関やそこで治験に参加する方々との間に信頼の輪を広げ、さまざまな業務をコーディネートするまでに至りました。



本文中の欧文略語に対する用語解説は8ページをご覧ください。



代表取締役社長CEO **中村 和男**

当社は今までの幅広い事業経験により蓄積されたノウハウを活用しながらCRC(臨床試験コーディネーター)業務やパシエントリクルート業務という新しいビジネスを創出してきました。現在は、モニタリング業務、データマネジメント業務、CRC業務や薬事コンサルティング業務をコア事業とし、幅広い領域を扱う豊富な実績を生かしていち早く患者さんに新薬を提供するための医薬品開発のプラットフォームを目指し研鑽しています。

CROの事業領域は、独自のノウハウやシステムを蓄積しながら今後もますます拡大するものと思われます。そこで、特に次年度では「CROからPVC(Pharmaceutical Value Creator)へ」という課題を掲げ、さらなる付加価値創生型のビジネスへと飛躍を目指します。

株主の皆さまにおかれましては今後とも一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

# 新薬開発を総合支援する、4つのソリューション。

「より良い薬をより早く患者さんのもとへ」



新薬の開発プロセス（オレンジの部分が、当社が主に行う業務）



有効性と安全性を確保しなければならない医薬品。新薬の開発は、長期間にわたり多額の開発コストを必要とします。世界規模で開発競争が激化する今、製薬会社が独自に開発のすべてを行うことは、コスト面でも人材面でも次第に困難になってきました。当社では長年の経験をもとに、臨床試験の進捗状況の調査から記録、報告の確認業務を行うモニタリングをはじめ、臨床データの処理業務や統計解析業務などを実施。さらに臨床試験が円滑に行えるように、医師と被験者との間のコーディネートを行うCRC業務や薬事申請の支援、薬事コンサルティング業務等を包括的に提供。これらの業務をコア事業とし、従来の規制の中ではありえなかった新しいビジネスを積極的に創出してきました。

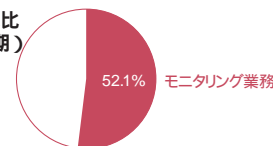
今後も蓄積したノウハウを活かし、医薬品開発の戦略的パートナーとして、新薬開発力の強化に貢献していきます。



## モニタリング業務 Monitoring

### 質の高いモニタリングによる開発支援

連結売上高構成比  
(2002年9月期)



臨床試験の進捗状況の調査や品質管理において国際基準である新GCPに対応したクオリティを保持。

当社グループの成長を牽引する業務がモニタリング業務です。モニタリング業務は、臨床試験の依頼者により指名されたモニターが、臨床試験の進捗状況を調査し、臨床試験が国際基準である新GCP (GPMSP) や治験実施計画書、標準業務手順書に従って実施、評価及び記録されていることを随時確認し、それらのデータを収集する業務を言います。当社は日本初のCROとして、豊富な実績と培ったノウハウによる質の高いモニタリングで、お取引先の皆さまから高い評価を戴いています。さらに、臨床試験の実施・データ作成・文書化および報告がGCPを遵守しているかをシステムとして確認するQC (臨床試験の品質管理) を行っており、厳密なGCPの基準に対応できる「開発に強い」会社として、優位性を確保しています。現在モニタリング業務を遂行するモニター (CRA) は約200名を超え、日本のCROとしては最大の規模を誇っています。また、支店網の整備により全国展開によるきめ細やかなサービスの提供を行っています。

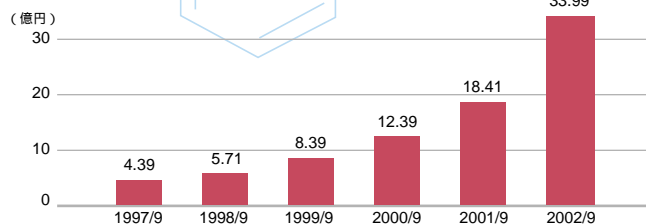
充実した教育カリキュラムによりスペシャリストの育成を図ります。

当社の成長は、優秀な人材の確保によるところが大きいといえます。モニタリング業務においては、質の高いモニターの育成を図るために社内研修制度を設け、6ヶ月の教育研修を行っています。教育に重点をおいた質の向上と一人ひとりの生産性向上によりお取引先や医療機関の皆様との信頼関係を築いていきます。

CRAによるモニタリング



モニタリング業務売上高 (2000年9月期以降は連結データ)



本文中の欧文略語に対する用語解説は8ページをご覧ください。



データマネジメント業務 Data Management

大規模臨床試験のコスト削減に寄与する自社開発システム

連結売上高構成比  
(2002年9月期)  
データマネジメント  
業務

17.1%

臨床データをさまざまな角度から統計解析できる形にデータ処理を実施。

データマネジメント (DM) 業務は、試験 (臨床試験、市販後調査: 使用成績調査、特別調査、市販後臨床試験) 依頼者が実施する臨床データ処理を行う業務のことで、モニターあるいはMR (Medical Representative) が試験責任医師から入手した症例報告書 (CRF) に記載された情報を統計解析できる形にデータ処理 (データベース化) する業務です。

統計解析業務は、DM業務を通じて作成されたデータベースを用いて平成10年厚生省課長通知 (当時) が示した「臨床試験のための統計的原則」(ICH E9) に基づき医薬品の有効性及び安全性についての観測・評価結果を集計並びに統計学的検討を行う業務です。

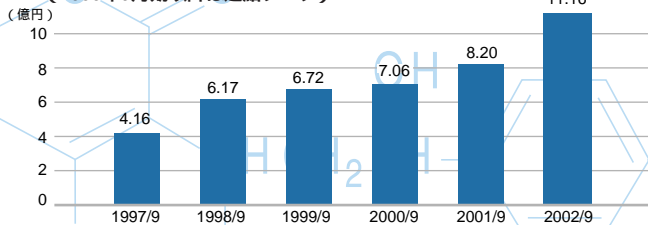
現在、最終的に統計解析に使用できる適切なデータを集積し、管理することが求められています。そのためには試験計画の立案段階から関与していく必要があり、更にはインターネット等の電子媒体の利用による臨床試験の進捗管理なども求められ、業務範囲が拡大しつつあります。

シミックは、約15年にわたる実績で培ったノウハウを応用させ、広義のデータマネジメント業務を事業化しています。

迅速なデータ収集・解析を実現するABCDシステムを開発。大規模臨床試験のコストを大幅に圧縮可能です。

EBMをさらに加速させる独自のシステムが、ABCDシステム (Automatic Bar-Code Data capturing system) 。これはITを駆使したeクリニカルトライアルで、臨床試験の際の臨床データ入力をペン型バーコードリーダーで行うものです。入力ミスを防ぎ簡単に入力できるWebエントリーシステムで、臨床試験において医師に配られる調査票に記載する項目をコード化。バーコード入力するとWebを経由してデータ管理サーバーに直接送付することができます。このABCDシステムは、当社が自社開発したIT技術のひとつで、現在国内外で特許を出願中です。臨床試験の進捗状況もリアルタイムで管理でき、データ解析もスムーズになります。

データマネジメント業務売上高  
(2000年9月期以降は連結データ)





CRC (臨床試験コーディネーター) 業務

Clinical Research Coordinator

## 臨床試験をスムーズに進めるコーディネートスキル

連結売上高構成比  
(2002年9月期)

CRC業務

22.5%

シミックCRCでは、看護師資格者が医師と被験者を結ぶ総合的なコーディネート業務を推進しています。

CRCは、医師の指導の下、医療機関で臨床試験をスムーズに進めるコーディネート業務を行っています。かつて日本の医療現場では新GCP省令に対応する環境が整っておらず、臨床試験(治験)の減少およびスピードの鈍化という現象が起こりました。これを解決するために、当社は日本で最初にCRC業務を開始いたしました。その他にも被験者を募集するペイシェントリクルートセンターや、製薬企業に代わって特定の医薬品等に関する相談に対応する薬相談室など、きめ細やかなサービスを提供しています。



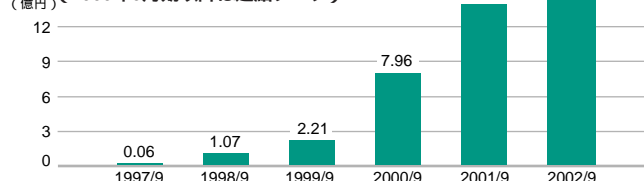
メディカルコールセンター



CRCによる治験コーディネート

CRC業務売上高

(2000年9月期以降は連結データ)



薬事コンサルティング業務・その他

Consulting & Others

## 薬事コンサルティングによる包括的なサポート

連結売上高構成比  
(2002年9月期)

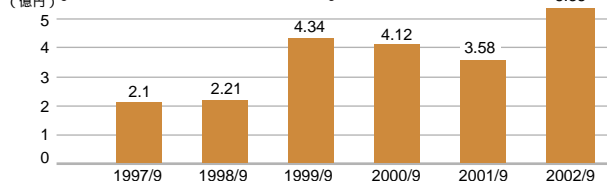
薬事コンサルティング  
業務・その他

8.3%

戦略薬事コンサルティングから市販後のマーケティング・ストラテジーコンサルティングを中心としたMPSS業務・国際プロジェクト・有害事象のマネジメントなど。当社では、これからの製薬ビジネスで欠かせないさまざまなサービスを提供することで、より強力なパートナーシップを発揮しています。

薬事コンサルティング業務・その他売上高

(億円) (2000年9月期以降は連結データ)



### 【その他の業務】

#### 戦略薬事コンサルティング

新薬の開発から申請、発売までの顧客ニーズに応じたコンサルティング。

#### MPSS事業

製薬企業に対するマーケティング・コンサルティングなど。

#### 国際プロジェクト業務

韓国や中国における新薬開発のための臨床試験の受託など。

#### ビジネスサポート事業

製薬・医療に特化した人材教育・開発、派遣サービスなど。

#### 有害事象マネジメント

有害事象の情報収集およびハンドリング。

#### IPD (Intellectual Property Development)

知的財産開発業務。

## 2002年6月17日、当社はJASDAQ市場へ上場いたしました。

当社は2002年6月17日をもちましてJASDAQ市場に上場を果たしました。1992年に日本初のCROとして始動後、10周年という記念すべき年にこのような大きな節目を迎えることができましたことは、株主の皆さまのご支援の賜物と深く感謝しております。

今後とも株主の皆さまをはじめとする、ステークホルダーの方々を持つ価値を最大化することを常に追求してまいります。



## 第2回中韓セミナーを10月8日、9日に開催いたしました。

本年3月の第1回セミナーに続き、10月8日並びに9日に「アジア（中国・韓国）における医薬品開発セミナー・日本の臨床試験はこうに変わる（第2回）」を開催し、多くの方にご参加いただきました。今回は中国・韓国の医薬品開発の現状をより専門的にご説明し、大きな反響を受けております。当社では既にCMIC China（シミック チャイナ）を開設、ソウルにCMIC Korea Co., Ltd.（シミック コリア）を設立。アジアにおけるCRO事業の戦略拠点として現地スタッフと共に活発な展開を行っております。

**CMIC** 希米科北京代表処

**CMIC** (주) 시믹 코리아

## 2002年11月に株式会社シミック アカデミックデータセンター（ADC）を設立

当社ではこのたび、医師主導による臨床研究を支援する事業に進出するため、株式会社シミック アカデミックデータセンターを設立いたしました。新たな薬事法改正案では製薬会社主導による治験以外に、医師主導による自主研究も治験として将来の医薬品承認申請に適用されることが想定されています。そこでシミック ADCでは、このような医師による自主的な臨床研究を強力にサポートするための人材およびABCDシステムを中心としたITインフラを供給し、この分野でもEBMの確立への貢献を目指します。

**ADC**  
Academic Data Center

株式会社シミック アカデミックデータセンター



## Abbreviation

本文中の欧文略語に対する用語解説です。

## ABCD

**CRA** 【 Clinical Research Associate 】  
臨床試験担当者。いわゆるモニターのこと。

**CRC** 【 Clinical Research Coordinator 】  
臨床試験コーディネーター。

**CRF** 【 Case Report Form 】  
症例報告書。

**CRO** 【 Contract Research Organization 】  
医薬品開発受託機関。

**CSO** 【 Contract Sales Organization 】  
営業・マーケティング業務の受託機関。

## EFG

**EBM** 【 Evidence-Based Medicine 】  
科学的根拠に基づいた医療。

**新GCP** 【 Good Clinical Practice 】  
医薬品の臨床試験を実施するにあたり遵守すべき基準。  
1997年に日本でも導入された臨床試験の国際基準。  
治験実施体制の厳格化のもと、我が国でもCROの存在と役割が公認された。

**GPMSPI** 【 Good Post Marketing Surveillance Practice 】  
市販後調査を実施するにあたり遵守すべき基準。

## LMNO

**MR** 【 Medical Representative 】  
医薬情報担当者。

## PQRS

**PMS** 【 Post Marketing Surveillance 】  
市販後調査。市販後の安全性監視のための調査。

**QC** 【 Quality Control 】  
臨床試験の品質管理。

## 臨床試験（治験）

医薬品の開発の過程において、人に対し薬の効果や安全性を調べるために行う試験。

# 2002年9月期の経営成績

## 2002年9月期連結決算

当期のわが国経済は、不良債権問題、デフレ対策問題等がかえ、依然景気の低迷状況を続けております。医薬品業界におきましても、薬価引き下げ、医療費抑制政策等、経営環境は厳しい状況で推移しております。このため、製薬企業は合理化・アウトソーシング等による経営効率化や業績拡大のため新薬の研究開発が活発化している状況にあります。この様な状況の中で、当社グループが属するCRO（医薬品開発受託機関）業界は臨床試験の受託を順調に拡大しております。

当社グループにおきましては、昨年に引き続き国内外の顧客から新薬開発業務受託拡大に努めました結果、連結売上高6,525百万円（前年度比47.7%増）、同営業利益663百万円（同58.5%増）、同経常利益656百万円（同60.3%増）、同当期純利益264百万円（同42.1%増）となりました。事業の品目別概況は次の通りです。

モニタリング業務における売上高は、受注活動の活発化とモニター育成による体制整備の効果により3,399百万円（同84.7%増）となりました。

データマネジメント業務における売上高は、治験の迅速化およびABCDシステム導入等の受注獲得により、1,116百万円（同36.1%増）となりました。

CRC業務における売上高は、クライアントのリピートおよび新規受注増により、1,471百万円（同5.2%増）となりました。

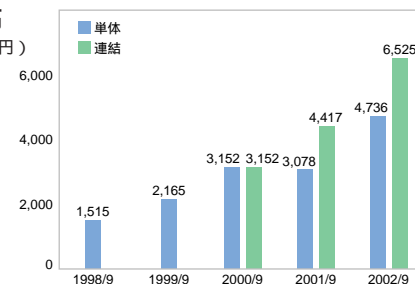
薬事コンサルティング業務・その他では、ビジネスサポート事業の特定派遣業務の伸びが著しく、538百万円（同50.5%増）となりました。

## 連結キャッシュ・フロー

当連結会計年度において、営業活動によるキャッシュ・フローは74百万円のプラスとなりました。これは前期比184百万円の減ですが、主に業容拡大に伴う売上債権の増加によるものです。投資活動によるキャッシュ・フローは739百万円のプラスとなっています。これは主に定期預金の払戻しによるものです。財務活動によるキャッシュ・フローは905百万円のプラスとなっています。これはJASDAQ上場に伴う新株発行による収入があった一方、借入金の返済による支出が増加したことによるものです。現金及び現金同等物の期末残高は2,765百万円となりました。

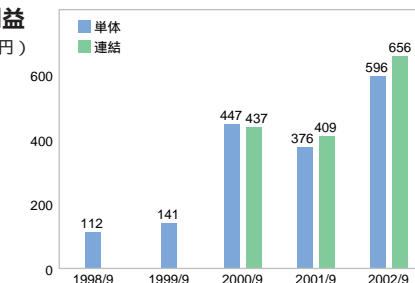
## 売上高

(単位:百万円)



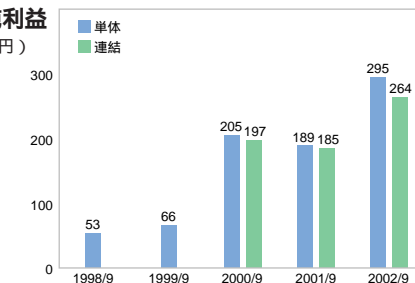
## 経常利益

(単位:百万円)



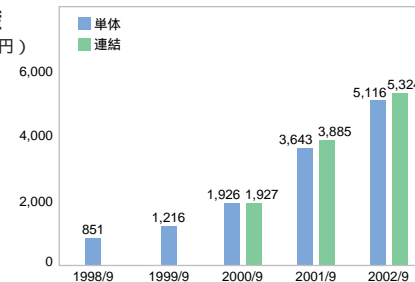
## 当期純利益

(単位:百万円)



## 総資産

(単位:百万円)



## 連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当連結会計年度 (2002年9月30日現在)	前連結会計年度 (2001年9月30日現在)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,776,732	1,951,366
売掛金	1,457,021	1,020,005
たな卸資産	329,309	288,500
繰延税金資産	77,912	34,154
その他	56,876	62,033
<b>流動資産合計</b>	<b>4,697,852</b>	<b>3,356,060</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び建物附属設備	96,886	67,075
車両運搬具	11,577	13,292
器具備品	120,966	140,839
土地	1,481	1,481
<b>有形固定資産合計</b>	<b>230,911</b>	<b>222,689</b>
<b>無形固定資産</b>	97,144	95,105
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	4	4
繰延税金資産	47,890	27,303
敷金保証金	234,391	167,516
その他	16,166	16,700
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>298,454</b>	<b>211,525</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>626,510</b>	<b>529,320</b>
<b>資産合計</b>	<b>5,324,362</b>	<b>3,885,380</b>

(単位：千円)

科 目	当連結会計年度 (2002年9月30日現在)	前連結会計年度 (2001年9月30日現在)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	70,192	130,816
短期借入金	-	424,000
1年以内返済予定の長期借入金	254,770	269,341
未払法人税等	313,880	203,193
未払金	155,629	82,018
未払費用	277,361	264,869
前受金	264,495	245,490
その他	135,781	68,467
<b>流動負債合計</b>	<b>1,472,110</b>	<b>1,688,198</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	325,273	421,065
退職給付引当金	102,062	77,584
その他	20,000	-
<b>固定負債合計</b>	<b>447,335</b>	<b>498,650</b>
<b>負債合計</b>	<b>1,919,445</b>	<b>2,186,848</b>
<b>少数株主持分</b>		
少数株主持分	-	107
<b>資本の部</b>		
<b>資本金</b>	1,216,060	638,060
<b>資本準備金</b>	1,461,370	551,370
<b>連結剰余金</b>	726,792	509,492
<b>為替換算調整勘定</b>	694	498
<b>資本合計</b>	<b>3,404,916</b>	<b>1,698,424</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>5,324,362</b>	<b>3,885,380</b>

## 連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
	(2001年10月1日から 2002年9月30日まで)	(2000年10月1日から 2001年9月30日まで)
売上高	6,525,524	4,417,194
売上原価	4,402,541	3,166,925
売上総利益	2,122,983	1,250,269
販売費及び一般管理費	1,459,362	831,671
営業利益	663,620	418,597
営業外収益	13,942	8,549
受取利息	630	1,132
受取手数料	4,187	4,399
受取賃貸料	4,181	2,712
為替差益	3,131	-
その他	1,811	304
営業外費用	21,315	17,854
支払利息	17,850	15,106
為替差損	-	1,928
その他	3,465	819
経常利益	656,247	409,291
特別損失	15,898	22,556
退職給付会計基準変更時差異	-	22,420
固定資産除却損	15,898	135
税金等調整前当期純利益	640,348	386,735
法人税、住民税及び事業税	440,630	232,441
法人税等調整額	64,345	21,814
少数株主損失	107	9,765
当期純利益	264,171	185,873

## 連結剰余金計算書

(単位：千円)

科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
連結剰余金期首残高	509,492	343,414
連結剰余金減少高	46,871	19,795
配当金	37,871	9,795
取締役賞与金	9,000	10,000
当期純利益	264,171	185,873
連結剰余金期末残高	726,792	509,492

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	74,932	259,742
投資活動によるキャッシュ・フロー	739,500	1,034,740
財務活動によるキャッシュ・フロー	905,764	1,575,124
現金及び現金同等物に係る換算差額	468	691
現金及び現金同等物の増加額	1,720,666	799,434
現金及び現金同等物の期首残高	1,044,966	245,531
現金及び現金同等物の期末残高	2,765,632	1,044,966

## 単体貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

科 目	当会計年度	前会計年度
	(2002年9月30日現在)	(2001年9月30日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	4,308,946	3,079,150
固定資産	807,282	563,872
有形固定資産	204,587	198,479
無形固定資産	95,128	93,522
投資その他の資産	507,566	271,870
<b>資産合計</b>	<b>5,116,229</b>	<b>3,643,022</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	1,247,421	1,462,276
固定負債	422,238	470,580
<b>負債合計</b>	<b>1,669,659</b>	<b>1,932,856</b>
<b>資本の部</b>		
資本金	1,216,060	638,060
資本準備金	1,461,370	551,370
利益準備金	17,700	13,000
その他の剰余金		
任意積立金		
別途積立金	390,000	240,000
当期末処分利益	361,439	267,735
その他の剰余金合計	751,439	507,735
<b>資本合計</b>	<b>3,446,569</b>	<b>1,710,165</b>
<b>負債・資本合計</b>	<b>5,116,229</b>	<b>3,643,022</b>

## 単体損益計算書(要旨)

(単位：千円)

科 目	当会計年度	前会計年度
	(2001年10月1日から 2002年9月30日まで)	(2000年10月1日から 2001年9月30日まで)
売上高	4,736,498	3,078,333
売上原価	3,308,186	2,328,129
売上総利益	1,428,312	750,204
販売費及び一般管理費	821,790	439,508
<b>営業利益</b>	<b>606,521</b>	<b>310,696</b>
営業外収益	11,202	81,324
営業外費用	21,125	15,271
<b>経常利益</b>	<b>596,598</b>	<b>376,748</b>
特別損失	13,347	18,065
税引前当期純利益	583,251	358,683
法人税、住民税及び事業税	338,007	177,591
法人税等調整額	50,032	8,302
<b>当期純利益</b>	<b>295,275</b>	<b>189,394</b>
前期繰越利益	66,163	78,341
<b>当期末処分利益</b>	<b>361,439</b>	<b>267,735</b>

## 利益処分

(単位：千円)

科 目	当会計年度	前会計年度
当期末処分利益	361,439	267,735
合計	361,439	267,735
利益処分量	223,940	201,571
利益準備金	-	4,700
配当金	58,940	37,871
取締役賞与金	15,000	9,000
任意積立金		
別途積立金	150,000	150,000
<b>次期繰越利益</b>	<b>137,499</b>	<b>66,163</b>

## 株式の状況 (2002年9月30日現在)

### 株式データ

会社が発行する株式の総数 2,300,000株

発行済株式総数 673,600株

(注) 当期中の増加

株式の分割による新株式発行 (2002年2月1日) 587,664株

公募増資による新株式発行 (2002年6月17日) 80,000株

株主数 1,653名

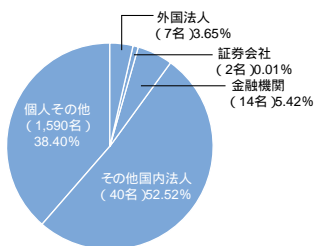
### 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アルテミス	330,600	49.1%
中村和男	131,800	19.6%
シミック従業員持株会	26,810	4.0%
みずほキャピタル株式会社	17,600	2.6%
中村圭子	16,400	2.4%
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	15,330	2.3%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	10,950	1.6%
市川宏司	8,000	1.2%
投資信託 受託者三井アセット信託銀行株式会社	4,750	0.7%
株式会社みずほ銀行	4,000	0.6%
西山紀男	4,000	0.6%

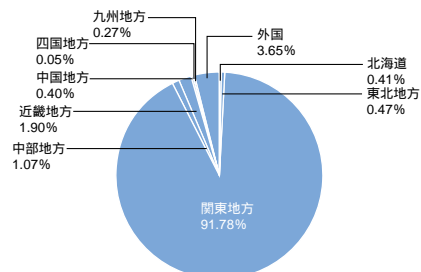
(注) 1. 富士銀キャピタル株式会社は、平成14年4月1日付で東京ベンチャーキャピタル株式会社および興銀インベストメント株式会社と合併し、みずほキャピタル株式会社となりました。

2. 株式会社富士銀行は、平成14年4月1日付で株式会社第一勧業銀行および株式会社日本興業銀行と分割・合併し、株式会社みずほ銀行と株式会社みずほコーポレート銀行となり、当社の大株主は株式会社みずほ銀行となりました。

### 所有者別の構成比(株式数比率)



### 地域別の構成比(株式数比率)



## 会社概要 (2002年9月30日現在)

商号 シミック株式会社

設立 1985年

資本金 1,216,060千円

本社所在地 〒141-0022 東京都品川区東五反田4-7-20 相生ビル

従業員数 546名

(連結) 112名(平均臨時雇用者数)

### 事業所

北海道支社  
東北支社  
名古屋支社  
大阪支社  
九州支社  
CMIC China (北京駐在員事務所)

### グループ会社 (連結子会社)

シミックCRC(株)  
(株)シミックMPSS  
(株)シミック・BS  
(株)シミックADC  
CMIC Korea Co., Ltd.

## 役員 (2002年12月19日現在)

代表取締役社長	中村和男
取締役副社長	西山紀男
専務取締役	市川宏司
常務取締役	中村圭子
常務取締役	中村紘
取締役	安田利正
取締役	奥山真一
取締役	田中貴幸
取締役	小駒皆子
取締役	山崎恒義
取締役	久保忠司
取締役	詫摩直也
監査役(常勤)	中野信介
監査役(非常勤)	後藤慎
監査役(非常勤)	長井千子
監査役(非常勤)	酒井繁

## 沿革

1985年	3月	製薬企業からデータの集計・解析業務の受託を目的として設立
1992年	4月	中村和男代表取締役就任 日本で最初のCROとして本格的にスタート
1994年	2月	臨床開発部設置
	9月	CRO4社にて「日本CRO協会」を発足
1996年	4月	大阪支社開設
	6月	日本のCROで最初にCRC業務開始
1998年	6月	CMIC Korea Co., Ltd.設立
1999年	4月	中村和男代表取締役が「日本CRO協会」会長に就任
	7月	九州支社開設
2000年	3月	北海道支社開設
	4月	日本で最初に臨床試験の被験者募集業務開始 東京と大阪にコールセンターを設置
	7月	シミックCRC(株)設立
	8月	(株)CIM設立 CSO業務開始
	10月	CRC業務部門をシミックCRCに営業譲渡（CRC業務の分社化） 東北支社開設
2001年	1月	名古屋支社開設 (株)シミック・BS設立 ヒューマンリソース業務開始
	9月	シミックChina（北京駐在員事務所）開設 (株)CIMを(株)シミックCSOに商号変更
2002年	6月	株式をJASDAQ市場に上場
	11月	(株)シミックADC設立 (株)シミックCSOを(株)シミックMPSSに商号変更

## Corporate Culture

### シミックの企業カルチャー

企業ミッション：EBMの確立に貢献する企業

企業カルチャー：

W&3C

自己学習する  
企業を目指して

W:WELLBEING

苦境でもBESTを  
尽くす姿勢

C:CHALLENGE

何事にも果敢に  
挑戦する勇氣

C:CHANGE

ニーズを先取りする変化

C:COMMUNICATION

積極的な  
コミュニケーション

## 株 主 メ モ

---

決 算 期 日	毎年9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年12月
配当金受領の株主確定日	9月30日 中間配当を実施するときは3月31日
基 準 日	毎年9月30日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に 基準日を定めます。
公 告 掲 載 紙	日本経済新聞
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目5番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	電話(03)3642-4004(代表)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほアセット信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

## シミツク株式会社

〒141-0022 東京都品川区東五反田 4-7-20 相生ビル  
Tel 03-3280-2296(代)  
Fax 03-3280-5657  
<http://www.cmic.co.jp>